

## 令和3年度認定

## (計画名：大分県立美術館を中核とした大分県文化観光推進拠点計画)

## ①計画目標の達成状況

目標項目名(単位)	R3			R4			R5		R6		R7	
	目標	実績	達成率	目標	実績	達成率	目標	実績	目標	実績	目標	実績
大分県立美術館来場者数(国内・人)	100,000	141,387	141%	110,000	134,921	123%	120,000		130,000		140,000	
大分県立美術館来場者数(国外・人)	1,000	1,033	103%	1,500	1,504	100%	2,000		3,000		4,500	
大分県立美術館利用者の満足度(%)	52	50	96%	55	64	116%	58		61		64	
来場者の中での宿泊者の割合(%)	20	6	30%	23	7	30%	26		29		32	
地域資源にかかる体験プログラム参加者の満足度(%)	50	50	100%	53	90	170%	56		59		62	

## ②計画目標の達成状況に関する分析・評価

<p>(分析) ・新型コロナウイルス感染症の影響から、全国的な感染者増加時期(夏期)は、来館者が全体的に下がる傾向にあり、イベントの中止、延期を余儀なくされた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊者数の割合は、別府・湯布院の宿泊者が大幅に落ち込んでいるため、その影響により落ち込んでいる。</li> <li>・「東アジア文化都市2022大分県」との連携や閉幕式典会場を大分県立美術館で行うことで来場者数の増加に繋がった。</li> <li>・冬季(12-1月)は感染者数も落ち着いていた時期にファミリー層をターゲットとした大型企画展を行うことで、県外や三世代の来館者があり、その流れがコレクション来場者増につながっている。</li> <li>・海外旅行者は増えつつあるが、コロナ禍以前のような団体客はまだ復活傾向にないため、海外利用者の伸び率が低迷している。</li> </ul> <p>(評価) ・海外、県外からの旅行者がコロナ禍以前の水準には戻っていないため、宿泊者数の利用割合は目標を達成できない状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジア文化都市2022大分県との連携や閉幕式典会場を大分県立美術館で行うことは地域循環として相乗効果となった。</li> <li>・九州唯一の展覧会(巡回)やサブカルチャー傾向の展覧会は県外からの関心が高い(相国寺展)。</li> <li>・観光局と連携し、福岡からのバスツアー(展覧会+温泉)の利用を働きかけ約1,000名の利用者があった。</li> <li>・今後も展覧会を活用した宿泊プランやツアー造成の取組を継続させたい。</li> <li>・高付加価値事業(竹工芸)が一般販売(淡交社)され、参加者から非常に高い満足度(大変良い90%)を得た。</li> <li>・地域文化資源(現代アート)をテーマとしたプレスツアー等で非常に高い評価(大変良い100%)を得た。</li> </ul>
--

## ③計画で取り組んだ事業の進捗状況

事業番号	事業名	R3	R4	R5	R6	事業類型ごとの実績額
1-①	「竹」と「日本の美」をテーマとしたコレクションシリーズ展示および企画展事業	・竹工芸専門学芸員の育成 実施日：7/14-12/23の間、11回実施 地域文化資源の調査事業の強化 ・白鹿記念酒造博物館、古美術石泉、大分市美術館、生野徳三氏、花笠、二代渡辺竹清氏調査 特集展示「此君礼賛-おおいた竹ものがたり」のvol.1.2.3開催	・竹工芸専門学芸員の育成 実施日：4/12-3/16の間、9回実施 地域文化資源の調査事業の強化 ・大分市内個人宅、倉敷民芸館、竹ラボ、別府市内個人宅調査 特集展示「此君礼賛-おおいた竹ものがたり」のvol.5.6開催			24.6百万円
1-②	大分県立美術館ボランティアガイド育成事業	①建築ガイド：43回参加者のべ260名 ②コレクション展56回のべ参加者292名	①建築ガイド129回参加者のべ233名 ②コレクション展解説ガイド登録53回のべ256人参加			
1-③	国東・別府地域との周遊性と観光循環向上のための展示・イベント事業	「人類の宇宙への挑戦」 2/12-3/13開催44,534人入場	①「LOOKS LIKE MUSIC」8/6-21 1,473人 大変満足61% ②「ナイトミュージアム」新型コロナウイルス感染症増加により中止			
1-④	大分県立美術館の「建築空間」を活用した施設有効利用促進事業	①キヤノン写真教室(7月・11月) 40名参加 ②『大分路上観察学会探偵団 in OPAM編』参加24名	①キヤノン写真教室(11月)20名開催 ②『大分路上観察学会探偵団 in OPAM編』参加15名③バックヤードツアー233名参加			
1-⑤	おおいた観光エリア連携によるサテライト展示・イベント事業	①OPAMコレクションのサテライト展示 ②別府竹細作品展 3,930人来場 ③「バンブー(竹)マルシェ」281人来場	①OPAMコレクションのサテライト展示 ②竹工芸ワークショップ51名参加 ③日中韓現代作家交流展」16,064人来場			
1-⑥	宿泊施設と連携したアート体験プログラム造成事業	①「竹工芸」アート体験プログラムの企画の立案(2プログラム) ②竹工芸(bamboo)モニターツアー1回、建築プレスツアー1回	①「建築」「現代アート」アート体験プログラムの企画の立案(2プログラム) ②プレスツアー2回 ③パンフレット作成			
1-⑦	おおいたアート体験プログラムスペシャルガイド育成事業	R3年度育成人数：12名 (内8名が実践ガイド活動希望)	R4年度育成人数：15名 (実践ガイド活動希望のべ12名)			
1-⑧	高付加価値の大分県立美術館コレクション特別鑑賞プログラムの造成	①「一期一会」大分県立美術館コレクション特別鑑賞プログラム(FAMツアー)12/1-2、1/19-20開催のべ10名参加	①12/1「一期一会」特別鑑賞プログラム(淡交社アー)10名参加 ②2/11(Thai Modern)3名参加			
1-⑨	大分県立美術館コレクションデータベース改修・拡充事業	-	所蔵品管理とホームページでの所蔵品検索を目的としたデータベースシステム再構築へのヒアリングを実施(事業期間：4/1-12/31)			

2-①	デジタルミュージアム「おおいた美の宝」（仮称）システム事業	①作品解説システム「大分美の宝」システム開発 ②コンテンツ制作・音声化・多言語化主要15作家、主要作品30点	①作品解説システム「大分美の宝」管理系統構築 ②コンテンツ制作、テキストの音声化、多言語化（25作品）			20.8百万円
2-②	インバウンドを対象とした地域文化資源（竹工芸、建築、屋内外設置現代アート作品）についての理解促進事業	1-①展示でのあいさつ文、主要解説パネル、配布パンフレットを多言語で表示 2-①多言語化	1-①展示でのあいさつ文、主要解説パネル、配布パンフレットを多言語で表示 2-①多言語化			
2-③	コレクション展および企画展理解・満足度向上事業	学芸員によるギャラリートークを各コレクション展、各企画展で実施出品作家等によるギャラリートークをコレクション展で実施	学芸員によるギャラリートークを各コレクション展、各企画展で実施出品作家等によるギャラリートークをコレクション展で実施のべ30回、1,623人参加			
3-①	大分県アートスポット循環および利用アクセスの向上事業	①『大分アートスポット&OPAMマップ』作成（日本語） ②大型イベントと連携したシャトルバス運行(2/26-2/27)	①『大分アートスポット&OPAMアクセスマップ（日英）』 ②OPAM×国東・別府周遊バスの運行5回			11.4百万円
3-②	大分県立美術館施設案内表示改善、デジタル化、多言語化促進事業	①フロア案内マップ1種（各階） ②案内サイン4種制作	①デジタルサイネージ設置 ②OPAM利用者状況対面調査（10/28-11/6）263件			
4-①	おおいた文化観光循環にかかる旅行商品の造成	①旅行情報サイト ②OPAM宿泊プラン ③デジタルスタンプラリー ⑤竹工芸WEBツアーの開催 実施時期：3/17-3/18 対象エージェント：首都圏、名古屋関西、福岡、大分 20社参加	①大分県観光情報公式サイト等での情報発信 ②旅行商談会等情報発信③企画展バスツアー ④WEBツアー ⑤公共交通機関との共通チケット等の造成 ⑥旅行会社招請ツアー ⑦特別鑑賞プログラムの日本語版改修、英語版WEBパンフ、料金表作成			2.3百万円
4-②	おおいた文化資源活用商品販売促進事業	「おおいた建築クッキー」製作（R4年夏販売開始）	大分県、大分県立美術館、Walesをテーマとしたイラストレーション3点を製作委託			
4-③	大分県の食材を使用したカフェメニュー提供事業	「カフェ・シャリテ」で大分県の食材を用いた定番メニューを提供。企画展ごとに関連するメニューを各2程度提供	「カフェ・シャリテ」で大分県の食材を用いた定番メニューを提供。企画展ごとに関連するメニューを各2程度提供			
5-①	大分県立美術館ホームページ多言語化事業	OPAMホームページ記載内容 館利用概要は日英中韓対応、企画展内容は日・英で表示	当館HP内における館概要説明部分に中国語（繁体字）、企画展内容説明部分に韓国語案内を追記し、併せて管理画面の改修			5.5百万円
5-②	大分県芸術文化情報総合ポータルサイト事業	ポータルサイト「おおいた芸術文化の旅 OITA Art & Culture」 12/28から運用開始	①竹工芸ページ追加 ②LP制作：「相国寺展」「Iichiko design展」③SNSプロモーション：Instagram・Facebook・YouTube等			
5-③	大分県内文化施設および宿泊業、大学等との連携による誘客広報事業	①県内交通要所・文化施設、宿泊業広報連携 ②大分空港、竹細工伝統産業、YTI、CAMY広報連携②OPAMアンバサダー多言語SNS情報発信	①県内交通要所・文化施設、宿泊業広報連携 ②大分空港、竹細工伝統産業、YTI、CAMY広報連携②OPAMアンバサダー多言語SNS情報発信			
6-①	大分県立美術館施設利用の利便性向上事業	無料Wi-Fi設置完了：9/30 運用：10/1-3/31	無料Wi-Fi運用			3.5百万円
各年度ごとの実績額→		33.7百万円	37.6百万円			71.3百万円

#### ④事業の進捗状況に関する分析・評価

（分析）事業番号1-①

・竹工芸「此君礼賛」では、地元作家の優品紹介、解説の充実、ギャラリートークの開催、特別な照明効果により、内容を充実させたことで、来場者の高い関心と満足感を達成している。出品作家や学芸員、ボランティアガイドによるギャラリートークは、作品を目の前にして直接に解説を聞くことができる機会であり、毎回好評を博した。

（評価）事業番号1-①

・大分県立美術館（前身：大分県立芸術会館）で工芸分野を担当していた友永尚子氏から、竹工芸の取り扱い指導をはじめ、個人蔵の作品の所在情報や、作家やコレクターの情報を共有させてもらうことによって、作家との繋がりができ、また個人蔵作品の調査研究が進展するなど、結果的に此君礼賛展の展示内容の充実に繋がった。

・新規の寄託作品として、県内在住作家である中臣一（Prism Circle、結び）等の代表作4件、同じく県内在住作家の生野徳三《白竹の籠 花萼》等の代表作3件、併せて7件を新収蔵することになった。また調査した生野祥雲齋《紫竹盛籃 田里》と宮崎珠太郎《竹花器はばたく》《拡がりⅡ》の3件は、収集予算を確保・調整し購入に至った。

<p>(分析) 事業番号 1-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアによる館内建築ツアー、コレクション展ギャラリートークは、来場者の来館及び作品鑑賞の際に、対面でインターラクティブに行うため、来館者及び来場者の満足度向上に非常に有効である。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ボランティアによる館内建築ツアー、コレクション展ギャラリートークは、来館者及び来場者の満足度向上につながり、リピーター増加に繋がっている。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「カラーチエイサー」は、元々は難読症の人のためにデザインされたものであるが、そこにある音のビジュアライゼーションと音を生み出す新鮮な喜びは、障がいの有無に関わらず、誰もが新しい気持ちで積極的に音と向き合おうとすることを誘導するものであった。本企画には、子供から大人まで多くの方々が参加し、美術と音が出会うユニークな企画を楽しんだ。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企画展「国立国際美術館名品展」との連携により、総参加者数1,473人 開催日数17日間 1日あたり参加者数 86.6人/日 イベント参加者の約6割が大変満足という評価を得た。他方、現代アートを嗜好する若い世代をターゲットとした「ナイトミュージアム」は新型コロナウイルス感染症の急増により中止を余儀なくされたが、今回の企画検討内容を今後の同系統イベントに生かし実現したい。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キヤノン写真教室」(11月)定員20名では、毎回募集を上回る応募があり、満足度もほぼ100%近い。</li> <li>・「建築めぐりツアー」は大分市の「路上観察学会」と連携することにより、OPAM周辺の建築をテーマとした周遊コンテンツとして造成することができた。</li> <li>・10月から月1回程度のバックヤードツアーを開始し、常態化しつつあり、対応できるスタッフも増加している。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-④</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「キヤノン写真教室」計画通りに実施 高評価を得ている。</li> <li>・「OPAM建築めぐりツアー」は東アジア文化都市事業と連携し、R4年は自己財源で実施した。</li> <li>・「バックヤードツアー」は旅行社の招請ツアーにも組み入れて、今後は団体ツアーの短時間の立ち寄りコースとしての定着化を図りたい。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「サテライト展示事業」は県外からの旅客者へのOPAMの情報発信及び所蔵品紹介を同時に行うため、好評である。</li> <li>・「在住竹工芸家展示」並びに「別府竹細工ワークショップ」は東アジア文化都市2022大分県の開幕式、閉幕式と同時開催したことで、相乗効果を得ることができた。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-⑤</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の満足度や興味・関心は高く、今後もOPAMでの「竹工芸展示」や大型イベントと連携してブラッシュアップして開催したい。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・美術館コレクションと地域の文化施設を結び付け、周遊性を高める新しいコンテンツを提示する内容。</li> <li>・地域文化資源(竹、建築、現代アート)をテーマとして、全国有数の滞在型温泉保養地である別府・宿泊業者との連携を図り、体験プログラム(アクティビティ)を造成することで、これまで希薄であったOPAMと主要観光地との間に新しい観光循環を創出する取組となった。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-⑥</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで見過ごされてきたOPAMコレクションの新しい魅力の再認識とブランド化に繋がった。</li> <li>・これまで大分⇄湯布院観光との接点が薄かったが、「建築・現代アート」をテーマとして改良しながらプレスツアーを重ね、商品として磨きをかけていく可能性あり。</li> <li>・OPAMではこれまでインバウンドを対象としたギャラリートークをしたことがなかったが、今後、インバウンド回復への対応を学ぶことができた。</li> <li>・「BAMBOO HOPPING」ツアーは年度内に1回催行することができ、今後もDMOと相談して販売を後押ししたい。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の観光ガイド組織との連携により、即戦力、ポテンシャルの高い文化観光ガイドが育成できている。</li> <li>・今年度は会場を別府とし、時間を夕方から開始にしたことで、若い層の参加者が増え、非常に好評を得た。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-⑦</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りにガイド育成講座を実施、当初予定していた受講生よりも多くの希望があり、多言語によるガイドを育成が行った。</li> <li>・アンケートでも15名中10名が大変満足と回答し、R5年度には既存受講生をイベントでのガイドとして活用予定である。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R3年度のFamツアーから実際のツアー催行に繋がり(淡交社)、非常に高評価を得た。</li> <li>・インバウンド、富裕層、コレクターを顧客に持つ旅行者や関係者の体験ツアーを行うことができ、R5年度以降への布石となった。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-⑧</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R5年度以降の商品化のための料金表などを作成したことで、B to Bの基盤が整い、R5年度商品化が進んでいる。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 1-⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・データベース再構築のために事前ヒアリング(対面)を実施することで、各学芸員の抱えている課題や問題点等を洗い出し、整理することができた。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 1-⑨</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後のデータベース再構築への基本設計の仕様を固めることができ、国立のアーカイブシステムと連動することの意識付けが行えた。</li> <li>・今後の博物館登録に向けての基盤が整備できた。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 2-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存の解説システムが利用者の使用率が下がっているため、QR方式によるアクセスと内容の充実を向上させたシステム開発コンテンツ制作を行った。</li> <li>・特にQRコードによって作品解説にアクセスできることで、コレクション展示鑑賞者の満足度が高まった。</li> <li>・計画通りにシステムの管理体系を完成させ、コンテンツを追加拡充し、好評を得ている。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 2-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県立美術館コレクション展示室内ではアプリによる作品解説を導入していたが、利用者が年ごとに減っており、あわせてアンドロイド版のスマートフォンではアプリダウンロードが出来なくなっていたため、本システム開発とコンテンツ制作により、QRコードによって、作家並びに作品解説を鑑賞者が利用しやすい環境を整えることができた。</li> <li>・今までなかった高精細画像、竹工芸360度が見られる、ストーリー性のある詳しい解説、学芸員による解説動画とのリンクなど、既存のシステムになかった新しいデジタル手法の導入により、鑑賞者の作品理解への興味、関心を高め、より深い鑑賞体験を提供することができるようになった。</li> <li>・日本語、英語、韓国語、中国後(簡体文字)に加えて、これまで掲載していなかった繁体文字を加えることで、大分県に最も多かった台湾旅行者への情報提供が可能となり、新型コロナウイルス感染症収束後の台湾団体旅行者対応が可能となった。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 2-②</p> <p>2-①事業に連動して実施。</p> <p>(評価) 事業番号 2-②</p> <p>日本語、英語、韓国語、中国後(簡体文字)に加えて、これまで定休尾していなかった繁体文字を加えることで、大分県に最も多かった台湾旅行者への情報提供が可能となり、新型コロナウイルス感染症収束後の台湾団体旅行者対応が可能となった。</p>

<p>(分析) 事業番号 2-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学芸員によるギャラリートークを各コレクション展、各企画展で複数回実施。</li> <li>・出品作家、ボランティア等によるギャラリートークをコレクション展で複数回実施。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 2-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画通りに実施し、来場者の満足度向上と入場者数増加につながっている。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 3-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・『大分アートスポット&amp;OPAMアクセスマップ』（日英）の作成。</li> </ul> <p>(評価) 3-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの観光MAPでは「アート」をテーマとしたマップがなかったため、さまざまな「アート」体験を目的にしたアクセスツールとして非常に好評を得ている。</li> <li>・OPAMとの連携美術館の割引券も利用できるため、各地域（大分⇄別府・湯布院）の循環、リピートの動機付けを促進する。</li> </ul> <p>(分析) 事業番号 2. 国東・別府 ⇄ OPAMシャトルバスの運行</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新型コロナウイルス感染者増加により日程を変更して秋に開催したが、広報が行き届かず、参加者は伸びなかったが、利用者の満足度は非常に高かった。</li> <li>・OPAMと別府・国東を周遊するための実施時期、動機付けとなるイベントの内容、交通手段、広報などを再度関係機関と連携しながら検討する材料となった。</li> <li>・「周遊バス」については、新型コロナウイルス感染症によるツアー延期、台風の影響等があり、参加者が伸び悩んだ。</li> <li>・延期によりOPAMのナイトミュージアム中止、企画展時期ともズレが生じたことも伸び悩みの原因と考えられる。</li> </ul> <p>(評価)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者の満足度は非常に高く、育成ガイドの活用には好適な内容であったことから、今後のバスツアー等造成の実施時期、動機付けとなるイベントの内容、交通手段、広報などを検討する実証となった。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 3-②デジタルサイネージ設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・国内外からの来館者に対し、OPAM施設の配置、導線等を物理的にストレスなく理解、利用できるように改善できた。</li> <li>・館内表示のデジタル化と多言語化を行うことにより、来館者の利便性が向上した。</li> <li>・デザインコンサルティングを行ったことで建築空間と整合した施設案内ができるようになった。</li> </ul> <p>(評価) 事業 3-②デジタルサイネージ設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・来館者が各階で館内情報を一元的に即時に得ることができるだけでなく、展示空間の標示物が整理されることで、本来のアトリウムや建築・展示空間の美しさを高めることができるようになった。</li> <li>・国内外来館者への利便性が高まった。</li> </ul> <p>(分析) 事業番号 3-②OPAM利用者状況対面調査</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・利便性：とても満足：64%、満足：26%、普通：8%、やや不満：2%、不満：0%</li> <li>・施設について：とても満足：57%、満足：20%、普通：22%、やや不満：1%、不満：0%（これまで案内表示等への不満が集ったが、R3年度改善により解消）</li> <li>・満足調査NPS（ネットプロモータースコア）：・約半数が高い満足度を示している。 ⑩18%、⑨16%、⑧15%、⑦13%、⑥11%、⑤9%、④7%、③5%、②4%</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 3-②：本対面調査結果はR5年度事業運営等に活用できるデータを得ることができた。</p>
<p>(分析) 事業番号 4-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大分県観光情報公式サイト等での情報発信②旅行商談会等でのOPAM並びに体験プログラム等の情報発信③OPAM連携宿泊プラン造成のための情報発信を行うことで、OPAM企画展を鑑賞する宿泊プランやランチバック等の造成が商品化することができた。</li> <li>・観光客への誘客PRを行い、別府・湯布院に滞在する観光客をOPAMへと誘導したり、OPAMと別府、湯布院を組み合わせた選択肢の情報提供を行うことができた。</li> <li>・体験プログラム旅行会社招請ツアーの開催（2/16-17県外旅行社10社参加）ではツアー造成のためのポイントをヒアリングすることができた。</li> <li>・大分県立美術館コレクション特別鑑賞プログラムの日本語版改修、英語版パンフレット新規作成、料金表を作成し、B to Bの広報が行えるようになった。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 4-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿泊バックやランチバックは、多くの利用者を得、OPAMと宿泊施設双方にメリットが生じており、宿泊施設との新しい関係と循環を作ることができた。</li> <li>・福岡（博多・小倉）発着のバスツアーを造成、販売することができ、大分県内バスツアーも初商品化ができ、企画展バスツアー造成への足がかりを構築できた。</li> <li>・「高付加価値体験プログラム」パンフレット（英語版）作成により、インバウンド旅行関係者に配付することができ、商品化に向けての基盤コンテンツを作成できた。</li> <li>・今回のFAMツアー参加によって、大分県立美術館や地域で特別な体験をすることの魅力を伝え、その魅力を実感してもらうことができた。旅行商品造成へとつながることが出来るという反応を得た。</li> <li>・本取組を通じて、来年度以降に旅行社と連携し、積極的に販売、利用してもらうための基盤や関係性の構築ができた。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 4-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ウェールズ出身のアンドリュー・ジョイス氏の親しみやすい作風が人気のイラストレーターが3枚のイラストを制作したことにより、今後は、本イラストレーションを活用した商品開発を行うことができる材料を得ることができた。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 4-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・R4年度は竹製品への活用を試みたが、物理的かつ技術的な問題が発生して、商品化には至らなかったが、今年の試みを活かして、R5年度は、大分県並びに大分県立美術館訪問の新しいお土産となるよう商品化を試みる予定である。</li> </ul>
<p>(分析) 事業 4-③ 企画展にあわせて大分の食材を用いたメニューを考案し、提供することで、企画展の満足度を上げることができる。</p> <p>(評価) 事業 4-③ 企画展や来館リピーター増加にも繋がっている。</p>
<p>(分析) 事業番号 5-① R3年度は企画展は日英での対応 アジア系特に韓国人来県者が増えているため、韓国語追加は効果あり。</p> <p>(評価) 事業番号 5-① 今後のアジア系観光客増加への対応の基盤整備となった。</p>

<p>(分析) 事業番号 5-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・当初、年間5万アクセスを予定していたが、11万以上のアクセスを得た。</li> <li>・ランディングページの運用によりSNS広告と連動することで、アクセス数は飛躍的に伸びる。写真が多いほどアクセスは伸びる傾向にある。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 5-②</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・4K動画による文化施設の紹介が非常に人気があり、大分県への来訪の動機付けに効果を上げている。</li> <li>・新たに制作した「竹工芸」ページには、高精細画像を活用することで、竹工芸の魅力を発信し、大分県立美術館コレクションの情報発信に効果を上げている。</li> <li>・SNS等による広報活動を実施することにより、大分県の芸術文化情報の発信力を強化し、効果を上げている。</li> <li>・R4年度に造成したバスツアー情報を本サイトで発信することで、バスツアー販売が好調であった。</li> <li>・東アジア文化都市のイベント情報も本サイトに掲載することにより、インターネット上でのゲートウェイとなり、県内周遊を促す効果を上げた。</li> </ul>
<p>【分析】事業番号 5-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまで連携していなかった美術館（大分市、別府市、由布市）の間に循環や広報連携が促進している。</li> </ul> <p>【評価】事業番号 5-③</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・計画に沿って実施し、広報強化に繋がっている。</li> </ul>
<p>(分析) 事業番号 6-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット回線を自由に美術館利用者が使用できることで、利用者の利便性が非常に高くなった。</li> <li>・利用者がSNS発信を容易におこなえるようになったので、OPAMの広報手段としても有効となった。</li> </ul> <p>(評価) 事業番号 6-①</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルミュージアムシステムの稼働にはこのフリーWi-Fiが不可欠であり、OPAMのコレクションの理解やブランド化にも活用できるようになった。</li> </ul>

### ⑤拠点施設の要件に関する取組状況

要件	文化観光拠点施設名	大分県立美術館
・文化資源の魅力に関する情報を適切に活用した解説・紹介		(1)事業内容 2-① デジタルミュージアム「おおいた美の宝」システム事業 ① R3年度に運用開始した「おおいた美の宝デジタルミュージアム」（主要作品解説）頁の管理画面を構築し、現場の学芸員が管理運用できるシステムを完成した。竹工芸作品の360度・全方位画像を掲載、主要作品高画質画像の掲載、主要作品解説を多言語化、音声化、主要作品を学芸員が解説した動画を掲載など。
・情報通信技術の活用を考慮した適切な方法を用いた解説・紹介		②①の解説システムは、展示室でQRコードからスマートフォン等でアクセスすることで、展示室内や館内の建築や現代アート作品の作品解説として活用できる作品数を拡充した。 ③上記システムは専用アプリを使用せず、クラウドからのダウンロードによって利用できるシステムであるため、インターネット回線（Wi-Fiシステム）がある場所であれば、どこからでも作品解説にアクセスが可能であるため、大分空港などのサテライト作品展示の作品解説として活用する。
・外国人観光旅客の来訪の状況に応じて、適切に外国語を用いた解説・紹介		(1)「竹」と「日本の美」をテーマとしたシリーズ展示にて、説明パネル・キャプション等の多言語化（日英韓） (2)「おおいた美の宝デジタルミュージアム」では、多言語化表示（英語・韓国語・中国語（繁体字）・中国語（簡体字）、各音声化を運用している。 (3)体験プログラムや高付加価値ツアー等では、多言語化対応できるスペシャルガイドを想定して、育成を行っている。
・文化観光の推進に関する多様な関係者との連携体制の構築		①本拠点計画に基づく各事業や取組について、県立美術館設置者である大分県と、美術館指定管理者・公益財団法人大分県芸術文化スポーツ振興財団、公益社団法人ツーリズムおおいた、NPO法人BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合の共同申者が緊密に連携し、観光事業者との調整や連携においてはツーリズムおおいたが中心的役割を担い、下記の関係者と調整や情報共有を行いながら連携体制を構築している。 ※大分県（企画振興部交通政策課、国際政策課、商工観光労働部観光政策局、先端技術挑戦室、新産業振興室）おおいた国際交流プラザ、NPO法人BEPPU PROJECT、大分県旅館ホテル生活衛生同業組合、別府市竹細工伝統産業会館、株式会社関屋リゾート、一般社団法人由布市まちづくり観光局、COMICO ART MUSEUM YUFUIN、株式会社大分航空ターミナル
・文化観光の推進に関する各種データの収集・整理・分析		（公社）ツーリズムおおいたと連携し、同法人が委託するマーケティングアドバイザーの調査、分析内容を共有し、県立美術館来館者、体験プログラム、ツアー参加者アンケート調査の結果、評価士による評価、県内宿泊者データに基づいた分析情報を用い、各事業の実施効果を適切に評価し、事業内容の改善につなげている。
・文化観光の推進に関する事業の方針の策定及びKPIの設定・PDCAサイクルの確立		商工観光労働部観光局、（公社）ツーリズムおおいたと一緒にデータ共有・分析を行い、客観的な観光関連データの集約・分析を行う。特に県立美術館及び県内主要観光地との周遊状況（ルートや利用交通機関）の現状把握を行う。同時に、各種データの解析、WEB調査や観光客の動態調査、宿泊事業者等と連携したモニタリング調査等をより効果的な方法で実施し、別府・湯布院宿泊者のアート志向と県立美術館事業への誘客に結びつく分析を行い、各事業へと反映させる。

### ⑥観光関係者（DMOなど）からの評価

評価者	評価内容
ツーリズムおおいた	<p>これまでの大分県の観光戦略は、おんせん県おおいたというイメージを中心に、大型イベントやキャンペーンなどのマス向けアプローチに重点が置かれていた。しかし、コロナ禍における観光業界では顧客のニーズが多様化し、それまでのような大量集客を狙うことは極めて難しくなってきた。</p> <p>そうした中で、今回の事業は、今までマスターゲット視点ではとらえることができなかった芸術や文化分野を取り入れた観光が、将来的に魅力的な観光コンテンツとなる可能性についての認識を高めるきっかけとなり、非常に価値のある取組と評価できる。</p> <p>今後は、日本人観光客だけでなく、外国人観光客や高付加価値を求める顧客層にもアプローチできるような内容にさらに改善されること、また、大分県の魅力は温泉のみならず、芸術文化も含まれるという認識が広まり、新たな来訪動機の一つとして広く一般に認知されるためのプロモーション展開にも期待する。</p>

### ⑦今後の改善の方向性

<ul style="list-style-type: none"> <li>・R5年度は宇宙港開港、ホーパークラフト開港、R6年度のデスティネーションキャンペーンとの連携して、相乗効果を高めたい。</li> <li>・体験プログラムや文化観光ガイドについては、R5年度は「竹と光のイベント」（仮称）へと拡充し、それまでの事業を反映し、より実践的に取り組んでいきたい。</li> <li>・上記「竹と光のイベント」（仮称）は、R4年度に受けた文化庁コーチング事業を有効に活用し、効果的な取組の基盤を作りたい。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症が5類に移行したことで、県内に戻ってきた観光客特にインバウンドへの対応を積極的に取り組みたい。</li> </ul>
---